

實而五動、通氣湯傳瘰柴胡連翹瞿二夕柴堯知酒芥炒各一力湘地各一夕五分半桂一分

〔醫學天正記乾下〕痛風。

一二見大夫殿母五十餘歲四肢痛痺、行步不遂、虫衝上、脈沈瀼、通經湯、四物ニ加己通爪膝紅桔

桃羌百朮栝木、

〔橘黃年譜上〕天保十年

初夏十九日、本船町若松屋藤四郎香爪診ヲ乞、其證歷節痛劇シク、焮熱妄語、飲食スル能ハズ、大

小便秘澀ス、醫或ハ傷寒トシ、或ハ傷冷毒西洋病名トシ、錯治効ナシ、余千金犀角湯加黃連ヲ用、二三日

奇驗ヲ得タリ、爾後此方ヲ以熱毒節ヲ治スルニ、驗アラザルコトナシ、

〔牛山方考中〕一痛風、氣虛ニ屬スル症、遍身走痛シテ晝ハ輕ク夜ハ重キ者、或ハ酒色過多シテ筋脈

空虛シ、風濕ニ中ラレテ、遍身手足走痛シテ如刺ニ、蒼朮、牛膝、陳皮、桃仁、葳靈仙、龍膽、茯苓、防己、羌活、

防風、白芷、甘艸ヲ加テ奇効アリ、疎經活血湯ト名付ク、有痰ニハ、南星、半夏ヲ加フ、氣虛ニハ、人參、白

朮ヲ加テ奇効アリ、

〔醫學天正記乾上〕感冒。

一柘植大炊助七年近感冒發熱、熱退後咳痰、久不食、尿赤無汗、寧肺湯、寶鑑ニ加減瀉白散

〔本朝醫談〕むかしの物語をよむに、風の心地といへる詞あり、是は諸病の因は、風寒なりとくすし

がいひたるが、世人にうつりて、凡病は、かせより起るものと心得たるやうに見ゆれども、斯邦に

一種かせといふ症あるなり、唐土人のいふ風とは異なり、其異なる事は、治療の異なるにて知べ

し、榮花物語、長徳元年、關白殿御心地あしく、御風にもなどおぼして、朴などまゐらすれど、おこた

らせ給はず、加茂保憲女集、足引の病やむてふほ、の皮吹寄風はあらじとぞ思ふ、是ほ、の木の

皮を用て、愈る病ありて、是を風といふなり、本草厚朴にいひ傳へたる、主治に拘はらず、これを用